

場所 静岡県富士宮市

面積 95.65ha

活動目的 台風により甚大な被害を受けた森林の再生、環境学習の場の提供。

サイト概要 富士山1～2合目に広がる国有林で、1996年の台風で甚大な被害を受けたエリアを含む約95.57haを静岡森林管理署と住友林業株式会社が協定を結び、管理しています。1998年に活動を開始し、1999年に、ボランティア・環境教育活動の拠点「フォレストアーク」が完成。施設には、太陽光発電やバイオトイレなど、環境に配慮した設備を導入しています。



**土地利用の
変遷**

台風で被害を受けたエリア(35ha)では1998年から10年間かけて、富士山麓の木々から採種して育てたブナ、ケヤキ、ミズナラ等3万本以上を植樹しました。若木を保護するヘキサチューブが2018年までに全て撤去されて育林の段階は終了し、現在は自然林に近づく段階に入っています。近年は草原に生息するウサギ、キジ、ウグイスなどの動物が減り、森林に生息するキツツキ、シジュウカラ等が増えています。その他、人工林エリアと樹齢100年の広葉樹林が広がる天然林エリアがあり、定期的にモニタリング調査や周回トレールの補修などを行っています。

**サイト周辺の
環境**

富士山「まなびの森」は富士山南麓1～2合目にあり富士山スカイラインから吉原林道を約1km入った場所にあります。周辺は広葉樹や針葉樹が織りなす国有林が広がっています。

**アピール
ポイント**

針葉樹を主に植林する日本において広葉樹を広範囲に植えるケースは珍しく、さらに同じ樹種を10本～20本まとめて植える「群状植栽」という手法を取っています。

富士山「まなびの森」では100年先を見すえた長期計画のもと幅広い協力が得られる仕組みを構築しています。地元のNPOからは環境学習やトレール踏圧調査で協力を得ているほか、NPOや学識経験者にモニタリング調査を実施していただいています。住友林業の社員はボランティアで植樹段階から関わり、森林の育成段階に応じて下草刈りや樹木調査などを実施してきました。

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

この一帯は国有林として長年管理されていましたが、1996年の台風により多数の倒木が発生し、緑が失われてしまいました。そこで住友林業が1998年から、被災エリアを含む95.57ha（2023年度から95.65ha）を林野庁から借り受けて自然再生活動を開始しました。25年間の活動により自然は再生されつつあり、多数の在来種が確認されるようになりました。子ども対象の環境学習活動を展開しているほか、社員がボランティアとして植樹・育林活動に参加しており、森林から恵みを得て事業を展開する当社の基盤について学ぶ場所となっています。（文化的サービス）

【主な植生】

主な植生はブナ・ケヤキ混交自然林、ヒノキ人工林、ウラジロモミ人工林、ブナ・ケヤキ植栽地。

【確認された主な動植物など】

マメザクラ（学名：*Cerasus incisa*）、ホオノキ（学名：*Magnolia obovata*）、ヤマトグサ（学名：*Theligonum japonica* Okubo et Makino）、アズマレイジンソウ（学名：*Aconitum pterocaule*）、ユリワサビ（学名：*Eutrema tenue*）、ツチアケビ（学名：*Cyrtosia septentrionalis*）、キバナノショウキラン（学名：*Yoania japonica*）、キイロスツポントケ（学名：*Phallus flavocostatus*）などの植物（菌類を含む）

ヤマドリ（学名：*Syrmaticus soemmerringii*、成体）、キジ（学名：*Phasianus versicolor*、成体）、ゴジュウカラ（学名：*Sitta europaea*、成体）、メジロ（学名：*Zosterops japonicus*、成体）、オオルリ（学名：*Cyanoptila cyanomelana*、成体）、モリアオガエル（学名：*Rhacophorus arboreus*、成体）、ニホンジカ（学名：*Cervus nippon*、成体）などの動物。



写真の説明：ヤマトグサ



写真の説明：マメザクラ

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

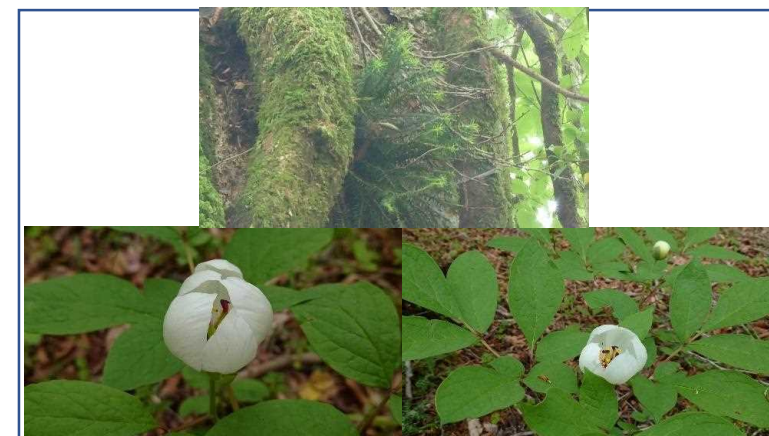
この一帯は国有林として長年管理されていましたが、1996年の台風により多数の倒木が発生し、緑が失われてしまいました。そこで住友林業が1998年から被災エリアを含む95.57ha（2023年度から95.65ha）を林野庁から借り受けて自然再生活動を開始しました。25年間の活動により森林は再生されつつあり、全国で絶滅危惧種に指定されている生物を含め多数の動植物が確認されるようになりました。

【確認された希少種】

環境省レッドリスト2020、静岡県レッドリスト2020に掲載された主な希少種は以下のとおり。

- ・キバナノショウキラン 学名：*Yoania amagiensis* 環境省レッドリストEN、静岡県レッドリストVU
- ・スギラン 学名：*Lycopodium cryptomerinum* 環境省レッドリストVU、静岡県レッドリストVU
- ・マツノハマニングサ 学名：*Sedum hakonense* 環境省レッドリストVU、静岡県レッドリストVU
- ・ヤマシャクヤク 学名：*Paeonia japonica* 環境省レッドリストNT、静岡県レッドリストNT
- ・これらの他、環境省レッドリスト2020及び静岡県レッドリスト掲載植物1種の生育が確認されている。

- ・モリアオガエル、成体 学名：*Rhacophorus arboreus* 静岡県レッドリストNT



写真の説明：スギラン（上）、ヤマシャクヤク（下）



写真の説明：モリアオガエル

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
<p>【管理計画の内容】</p> <p>常駐の社員が巡回し、パトロール活動と清掃活動を実施</p> <p>随時、林道、トレールの修復を実施</p> <p>歩みにくい場所に木製橋を作成</p> <p>樹木調査</p> <p>ボランティアによる鹿柵の設置など</p>	<p>【モニタリング対象】</p> <p>鳥獣、植物、トレイル踏圧、希少種・絶滅危惧種(キバナノショウキラン、スギラン、マツノハマネグサ、ヤマシャクヤク他植物の巡回調査、モリアオガエルの棲息・繁殖状況の巡回調査)</p> <p>【モニタリング場所】</p> <p>まなびの森一帯</p> <p>【モニタリング手法】</p> <p>定点観測（目視、写真撮影）</p> <p>【モニタリングの実施時期及び頻度】</p> <p>植生調査年3,4回、鳥獣調査年4回、昆虫生息調査は年1回(3か年計画で実施し2022年に一旦終了)、樹木調査年2回程度、踏圧調査は年4回 ※各年の計画によって若干の変動あり</p> <p>【モニタリング実施体制】</p> <p>日本野鳥の会南富士支部（鳥獣生息調査）、東京農工大学大学院農学研究院（植生調査）、NPO法人ホールアース自然学校（トレイル踏圧調査）、常葉大学（昆虫生息調査）、住友林業グループ社員ボランティア（樹木調査）</p>